

● 草の根パートナー型

平成23年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	インドネシア
2. 事業名	自然と人間の共存を目指し、公園現場事務所を拠点とした、コミュニティ・国立公園協働活動促進手法の深化と普及
3. 事業の背景と必要性	<p>インドネシアにおける国立公園は2011年現在、50の地域が指定され、動植物の生息を維持するシステムの保護や、種の多様性の保存、生物自然資源や生態系の持続的な活用という機能を持っているが、周辺住民や関係者との協議が不十分なまま国立公園指定がなされてきた経緯があり、公園の自然資源に生計を依存している地域住民等との軋轢が各所で発生している。</p> <p>こうした中、一般社団法人あいあいネットでは2008年度から西部バリ国立公園において現場職員の協働関係構築能力の向上に取り組んだ結果、職員のファシリテーション能力は急速に向上し、周辺コミュニティと協力的な関係を構築し、各村の抱える課題を適切に抽出できるようになった。この基盤に立ち、同国立公園においては自然環境と調和した生計向上活動及び村人主体の環境保全活動を各村で創出し、関係するステークホルダーも巻き込みながら協働活動を持続的に展開するステージに来ている。こうした協働活動促進の手法をシステムとして同国立公園に定着させるとともに、現場職員同士の学びあいを通じて他の国立公園に広げていくことが求められている。</p>
4. プロジェクト目標	国立公園地域の生物多様性保全と周辺コミュニティの生計向上とが両立する活動が持続的に進められ、協働活動促進の手法がモデルとして確立・普及する。
5. 対象地域	西部バリ国立公園とその周辺コミュニティ、及び同国立公園に近接した3カ所の国立公園とその周辺コミュニティ
6. 受益者層	国立公園周辺12村の住民（約60,000名）及び4つの国立公園職員（約70名）
7. 期待される成果及び活動	<p><成果></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国立公園の現場事務所に配属された職員によるファシリテーション能力が向上する 2. 周辺コミュニティの抱える課題解決にむけて、自然と共存する生計向上活動がコミュニティのイニシアティブで開始される 3. 周辺コミュニティの課題解決や生計向上に重要な意味をもつステークホルダーと住民および公園事務所との協力関係が構築される。 4. 西部バリ国立公園で積み重ねられた「現場事務所を拠点としたコミュニティ・国立公園協働活動促進手法」が他の国立公園に普及する <p><活動></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国立公園現場職員のファシリテーション能力育成研修 2. コミュニティへのファシリテーション（村の課題分析、資源マップ、事例調査、村のマスタープラン策定、協働MOUの締結） 3. コミュニティとステークホルダーとの協働会議の開催 4. 「コミュニティ・国立公園協働活動促進手法」の本省及び他公園への普及
8. 実施期間	2012年12月～2016年11月（4年）
9. 事業費概算額	74,631千円
10. 事業の実施体制	<p><日本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ● プロジェクトマネージャー1名 ● アシスタントマネージャー1名 ● 「自然と共存する生計向上」に関する事例調査担当1名 ● 国内調整員1名 <p><インドネシア人></p> <ul style="list-style-type: none"> ● プログラムオフィサー1名 ● ファシリテーション専門家1名 ● 記録員1名 ● 技術研修講師3名
II. 応募団体の概要	
1. 団体名	一般社団法人あいあいネット
2. 活動内容	住民主体の地域づくりの支援、コミュニティ・ファシリテーション手法の普及、国境を越えた学びあいを目指す研修